

山

山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告

平成30年度 展示テーマ『ひらく』

と
2019.10.1



山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告

平成30年度 展示テーマ『ひらく』

事業の経緯と経過

平成30年度は、参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特色を活かした学術資料または研究成果の展示を開催するという従来の体制に立ち戻り、参加館数は13大学17館（下記「事業の実施体制」参照）での事業となった。

今年度の事業説明会を、平成30年6月28日に山口大学総合図書館において開催し、

- ◎展示の共通テーマを『ひらく』とする
- ◎事業期間は10月から翌年1月までとし、各館2ヶ月以上展示を開催する
- ◎各地区事務担当館を設置する
- ◎関連事業としてスタンプラリーを実施し、4pt達成でオリジナルポストカード、8pt達成で大学グッズ詰め合わせをプレゼントする。館によりボーナスポイントを付与する
- ◎見学者が効率よく各館を回れるよう、各地区で開催期間を調整するなどが決定された。なお、事務担当館は後日協議があり、下関地区担当館は梅光学院大学博物館・図書館、宇部地区担当館は山口大学医学部図書館・工学部図書館となった。

以降、各館の展示準備とともにポスター、スタンプラリーカード（チラシ）、ポストカードなどを作成し、広報物配付後は事務局、各館による地域広報活動が進められた。

平成30年10月、予定通り『山口県大学ML連携特別展』は開幕した。会期中に計測された見学者数は約1,200名（図書館での開催は見学者を正確にカウントすることが困難）、スタンプラリーは4pt達成者11名、8pt達成者3名であった。次頁より参加各館の展示内容の紹介と実施成果を報告する。

なお、事業終了後の平成31年2月20日に、山口大学図書館において事業報告会が開催された。報告会では各館の報告と今後の提案がなされ、次年度以降の活動などが検討された。事業の課題として、例年に引き続き広報の強化が挙げられ、参加館からは「地域広報誌や新聞への広報掲載」「大学公式SNSの活用」「学芸員課程や司書課程との連携」などの報告・提案があった。

事業の実施体制

・主催

山口県大学ML連携事業事務局

- 代表 金重幾久美 (山口大学情報環境部学術情報課 課長)
- 事務担当 永久英雄 (山口大学情報環境部学術情報課 副課長)
- 川上誠 (山口大学情報環境部学術情報課 図書系主任)
- 下関地区担当 梅光学院大学博物館・図書館
- 宇部地区担当 山口大学医学部図書館・工学部図書館

・参加館

岩国短期大学附属図書館 宇部フロンティア大学附属図書館
 山陽小野田市立山口東京理科大学図書館 至誠館大学附属図書館
 下関市立大学附属図書館 下関短期大学附属図書館 水産大学校図書館
 東亜大学附属図書館 徳山大学図書館 梅光学院大学図書館
 梅光学院大学博物館 山口県立大学図書館
 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館 山口大学医学部図書館
 山口大学工学部図書館 山口大学総合図書館 山口大学埋蔵文化財資料館
 (50音順)

・共催

大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会

・後援

山口県図書館協会 山口県博物館協会 大学博物館等協議会



展示広報用ポスター



山口県大学ML連携事業Web



岩国短期大学 附属図書館

『絵本をひらくと
～懐古・夢・希望がみえてくる～』

住 所：〒740-0032 山口県岩国市尾津町2丁目24-18
電 話：0827-31-8141 (代)
e-mail：library@iwakuni.ac.jp
http://www.iwakuni.ac.jp/
●開催期間：10月22日(月)～12月21日(金)
※図書館の一般開放は行っていません。

【展示内容】

絵本をひらくと、そこには懐かしさ・夢・希望がみえてきます。絵本『からすのパンやさん』(偕成社)などの作者である、今年5月に逝去された加古里子(かこ・さとし)氏の作品には、さまざまな人達への想いと同様に、生き物や技術への愛情・夢・希望を深く感じ取ることができます。今回は加古氏の数多くの作品を、一部に限られますがご紹介しました。併せて絵本を題材とした授業の紹介などの展示も行いました。

【観覧者数】

約98名(大学祭当日の来館も含め観覧を確認できた人数)

【関連事業】

- ・学生図書委員による、かこさとし作品のおはなし会
大学祭当日11月18日(日)午後1回(30分):参加者35名(乳幼児含む)
- ・かこさとしさんへの手紙:参加者6名

【成果】

展示期間が大学祭と重なった折には、観覧者が増加しました。三世代年齢の観覧層でした。

また、展示は本学の特色である幼児教育をからめてPRする場にもなりました。地域に少しでも本学図書館のPRにつながるイベントになったと思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

昨今は、情報化社会の流れでもあり、学生の読書離れは深刻です。このML連携特別展の一つのきっかけに少しでも本学図書館の広報につなぎたいと考えていますが、企画から実際の展示、終了まで、長期にわたって図書館業務が高むのも現状です。

学生図書委員の協力と役割分担等を計画し、今後の運営を考えていきたいと思っています。



展示観覧風景



学生図書委員によるおはなし会の様子



宇部フロンティア大学 附属図書館

『香川昌子がひらいた学園』

住 所：〒755-0805 宇部市文京台2-1-1
電 話：0836-38-0524
e-mail：tosho@frontier-u.ac.jp
http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-institution/a-library/
●開催期間：10月1日(月)～12月21日(金)

【展示内容】

宇部フロンティア大学の母体である香川学園は、100年以上前の宇部の地で教育に情熱を持った一人の女性香川昌子によってひらかれました。今回の展示では、その香川昌子の人となりを紹介し、あわせて香川学園が迎った100年の歴史を紐解きながら、この学園の現在に至るまでの道筋を概説しました。

【観覧者数】

66名(カウントできたもののみ)

【関連事業】

大学祭の図書館開館

【成果】

宇部フロンティア大学の母体である香川学園が迎った100年の歴史と、香川昌子の人となりを紹介することができました。在学生には、創設者の教育への熱い思いを感じてもらえたのではないかと思います。また、展示期間内に大学祭が含まれていたため、保護者や地域住民の方々にも、観覧して頂くことができました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

テーマに沿って、より関心を引くような物品を出来れば展示したいと思います。また、広報活動および学内での周知と協力体制を強化したいと思います。



展示の様様



展示の様様



山陽小野田市立
山口東京理科大学 図書館
『薬用植物と100年前の薬学雑誌』

住所：〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通 1-1-1
電話：0836-88-4512
e-mail：ylib@admin.socu.ac.jp
http://www.socu.ac.jp/laboratory/library
●開催期間：11月1日(木)～12月27日(木)

【展示内容】

本学は、2018年4月、山口県で初となる薬学部を新設しました。また、6月には、薬学部生の研究と地域の方々の生涯学習の場として、山陽小野田市の江汐公園内に薬学部附属薬用植物園を開設して一般に公開しました。

今回、当館においては、薬用植物を見て・嗅いで体験できる展示、明治から昭和にかけて刊行された薬学に関する貴重な資料の展示を行いました。また、小冊子「くらしの中の薬草」を、来館者にプレゼント(先着・数量限定)しました。

【観覧者数】

約80名

【成果】

本学においては、ご年配の方が多く、山陽小野田市内をはじめ、宇部市、下関市、岩国市といった、遠方からのご来場もありました。図書館及び大学のホームページ並びに大学公式のLINE及びFacebookで当特別展を広く周知した甲斐もあり、例年より多くの方々にご来場いただくことができました。

展示のレイアウトでは、入口から出口までの導線を考え、出口付近に当展示に関連する資料を並べることで、展示物を順々に見終わった後、薬学や生薬等に興味を持たれた方に資料を借りていただけるよう工夫をしました。

また、当展示の実施にあつては、宇部日報の記事に取り上げていただいたり、山陽小野田薬剤師会から代表的な漢方薬の説明をご提供いただいたり、地域と連携することで、多大の成果を収めることができました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

来年度以降は、事前にプレスリリースを行うなど、学外の媒体で情報発信をする工夫も必要かと思いました。

また、来場者数に対して、アンケートの回答数が少なかったと思います。来場者自身が積極的にアンケートにご協力いただけるような工夫が必要だと思いました。



展示観覧風景



展示観覧風景



至誠館大学 附属図書館
『時代を拓く ～萩と明治維新～』

住所：〒758-8585 山口県萩市椿東浦田 5000
電話：0838-24-4081
e-mail：library@shiseikan.ac.jp
http://www.shiseikan.ac.jp/library/
●開催期間：10月17日(水)～12月21日(金)

【展示内容】

「明治という新時代を拓いた若き群像の知恵と気概と努力を学び、以って時代を切り拓く糧としよう」

本年は明治維新150年の記念の年。萩はこの維新胎動の地です。松下村塾の塾生はじめ多くの若者達が明治という新しい時代を拓いて来ました。

目を転じて現在を見ると、時代の大きなうねりの中で国内外に大きな課題を抱えています。永年に亘る各国の国際協調の努力に反しアメリカ・ファーストや英国のEU離脱等の孤立主義の台頭、人口爆発と人口減少という相入れぬ現象に悩む国々、想定の世界を超え、止まるところのない情報革命の進展等課題は尽きません。

こういう時こそ、歴史を振り返り、未来を切り拓く知恵と気概と努力を学びたいものです。振り返れば、そこに未来が見えるはず。このような観点から、先般スタートした図書館内の「吉田松陰研究所」と連携して企画いたしました。

【観覧者数】

50名以上(記帳7名)

【関連事業】

吉田松陰研究所開設記念「松下村塾と明治維新」(至誠館大学公開講座)

【成果】

附属図書館内に本年度開設した、「吉田松陰研究所」と連携して企画した展示となりました。

開設記念の公開講座(受講者約200名)の際は学外からの観覧者も来館され、大学図書館の存在を知っていただく良い機会となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

離れた地域にある大学でも、スタンプラリーが来館への有効な動機となるような何かがあるといいなと思います。



展示の様様



展示の様様



下関市立大学 附属図書館

『維新の影にクジラあり!? ～捕鯨と幕末の意外な関係～』

住 所：〒751-8510 山口県下関市大学町 2-1-1
電 話：083-252-1211
e-mail：library@shimonoseki-cu.ac.jp
http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/library/
●開催期間：10月2日(火)～11月30日(金)

【展示内容】

1853年の黒船来航から明治維新までを幕末と呼び、山口県は幕末期に多くの歴史的ドラマの舞台となりました。特に下関は維新発祥の地とも言われ、本年は明治改元から150年という大きな節目の年であると同時に、この変革のきっかけとなった黒船来航の目的のひとつに「捕鯨船の物資補給を目的とした寄港地の確保」がある点にも注目し、開国後にノルウェー式捕鯨法を取り入れ、近代捕鯨の発祥地でもある下関で、維新と捕鯨について来館者が考えるきっかけとなる展示を行いました。

【観覧者数】

およそ100名

【成果】

本展示を鑑賞する方からは、概ね良好な反応がありました。

そのなかで、下関の歴史、産業の発展にクジラが少なからず影響していることを知っていただけたと思います。

また、展示期間中に毎日新聞に展示のことが掲載されたことも、そのことを後押ししてくれたと思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

実施期間が長くなってきているため、鑑賞する方に新しい企画を提示することが難しくなっています。



展示観覧風景



展示の様様



下関短期大学 図書館

『くじらが拓く 下関の食と文化』

住 所：〒750-8508 山口県下関市桜山町 1-1
電 話：083-223-5340
e-mail：lib@shimonoseki-jc.ac.jp
http://www.shimotan.jp/publics/index/51/
●開催期間：10月1日(月)～1月31日(木)

【展示内容】

本活動は、団体(栄養健康学科・保育学科を持つ短期大学)の特性を生かしながら地域の子どもの育ちに貢献するものです。ここでは5回目に開催した下関と歴史的に深い関わりがある「クジラ」をテーマとして、地域の子どもと保護者を参加対象とした講座開催を通じて「世代間交流・家族間交流」「食育体験」「段ボール工作」「読書推進活動」以上4つの推進を目的として行ったものを紹介し、これからの子どもたちの育みと食と文化の継承についても考えました。

【観覧者数】

不明

【関連事業】

大学祭でのワークショップ 親子で楽しめる「くじらのおみこしをつくろう」

【成果】

本学の特性を活かし、家族間交流・食育・段ボール工作・読書推進を下関と関わりのある「くじら」をテーマとして、講座開催の様子を紹介した。また大学祭では本学教員・学生によるワークショップも開催し、参加親子で「くじらのおみこし」を制作した。これにより子どもも「くじら」を身近に感じることができ、地域の子どもの育ちに貢献できたように思えます。

また、市水産課より、「くじら」に関するパネルもお借りすることができ、さらに「くじら」への関心を持っていただくことができました。「下関の食と文化」の継承については、これからもおおいに考えていきたいと思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

図書館の一般開放はしていますが、外部からの来館は少なく、大学祭などで来館観覧していただいた際好評で、展示に対しての質問等もありました。

今後は、展示内容だけでなく、広報の方法も再検討の必要性を感じました。



展示観覧風景



ワークショップの様子



水産大学校 図書館

『海の未来をひらく』

住 所：〒759-6595 山口県下関市永田本町 2-7-1
電 話：083-286-5114
e-mail：nfulib@fish-u.ac.jp
http://library.fish-u.ac.jp/
●開催期間：11月1日(木)～12月28日(金)

【展示内容】

水産大学校では、立地する下関市がトラフグの一大集積地であることから、フグ類に関する研究とそれを活用した学理及び技術の教授を行っています。このフグ類に関わる標本や研究成果、学術資料等を展示することで、本校の教育及び研究内容をご紹介します。また、校内にある実物の捕鯨砲や錨、船舶の模型、水産生物の水槽もご紹介しました。

【観覧者数】

24名

【関連事業】

県内高校からのインターンシップ参加者の見学場所とした。

【成果】

本校が立地する下関市がトラフグの一大集積地であることから、フグ類に関する標本や研究成果、学術資料を展示することで、見学者に対して本校が実施している教育及び研究内容を紹介することができました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

一昨年度に比べて見学者が減少したことから、広報活動の充実が必要と考えます。



展示観覧風景



校内に設置されている捕鯨砲



東亜大学 附属図書館

『下関の作家を顕彰する
～鬼才・赤江瀑の百花繚乱～』

住 所：〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町 2-1
電 話：083-257-5111
e-mail：tosyo@toua-u.ac.jp
https://www.toua-u.ac.jp/
●開催期間：10月9日(火)～1月31日(木)

【展示内容】

赤江瀑（本名長谷川敬）は、6人兄弟の次男として1933年下関市に生まれました。小説家・劇作家として幻想耽美の世界を切り開き第12回泉鏡花賞をはじめ角川賞など数々の賞を授かっています。赤江作品は、バレエ、絵画、歌舞伎、能、書画、彫刻など芸術・芸能・工芸などをテーマとした作品が多く見られます。本展では、これらを裏付ける蔵書や著作本原稿を展示しました。

【観覧者数】

94名

【成果】

当初展示は12月21日まででした。12月の終了直前に墨蹟の寄託があり、また拝観したいという市民の声もあり会期延長を決定しました。また1月に入り別の方から資料（墨蹟、写真、高校時代の文芸誌、未発表と思われる原稿等）が提供され一挙に花が咲いたようです。郷土にこんなすばらしい作家がいるとは思わなかった、という感想がありました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

大学の先生方も拝観され、常設展にしてはどうかという意見も出ています。保管している物品も多く、まずは資料整理を行う必要性を感じています。



展示観覧風景



主要展示品



徳山大学 図書館

『日本を切り拓いてきた人々
～千治松コレクションから～』

住 所：〒745-8566 山口県周南市学園台
電 話：0834-28-5394
e-mail：toshokan@tokuyama-u.ac.jp
<http://www.tokuyama-u.ac.jp/about/about/facility/library/>
●開催期間：10月9日(火)～12月21日(金)

【展示内容】

本学収蔵の資料に、幕末から昭和にかけての政治家、軍人などの書を中心とした千治松家コレクションというものがあります。その中には吉田松陰の書や高杉晋作、木戸孝允、大久保利通、岩倉具視、三条実美の書翰なども含まれています。今回はそのコレクションから幕末・維新期の一部を公開いたしました。展示された幕末・維新期の歴史資料とともに日本の一時代を切り拓いてきた人物に思いを馳せていただけたものと思います。

【観覧者数】

30名

【関連事業】

幕末維新期の山口県ゆかりの人物関連図書展示

【成果】

徳山大所蔵の貴重な資料を公開することで、広く市民の関心を引いたことが一番の成果だと思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

展示だけを見に来るといよりは、ついでに観覧する人がほとんど。来館して初めて知る人が多く、広報に問題を感じました。駅や公民館などにポスターなどを掲示するなど工夫が必要です。スタンプは何人かに押しましたが、他の館には行かないという人が多く、連携の意味を検討すべきかとも思います。



展示の様様



展示観覧風景



梅光学院大学 図書館

『佐藤泰正からひらく学びのかたち
～佐藤泰正研究室に残された蔵書より～』

住 所：〒750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1
電 話：083-227-1040
e-mail：library@baiko.ac.jp
<http://www.baiko.ac.jp/university/library/>
●開催期間：11月2日(金)～1月31日(木)

【展示内容】

元本学学長、佐藤泰正先生は、夏目漱石をはじめとする文学研究者として、長く本学で指導にあたられました。2015年に亡くなられた後、研究室内の蔵書を整理し、先生の人生と文学研究に沿った形で展示することといたしました。例えば、佐藤先生をキリスト教信仰と文学研究に導いたというドストエフスキーの本に付された付箋の多さは、学問の花がひらいているように見えます。その真摯な学びの姿勢を、本学の新しい学びをひらく原動力として、今いる梅光の学生に伝えていくことができればと思います、展示を構築いたしました。

【観覧者数】

不明

【成果】

佐藤泰正研究室の本を整理するにあたり、蔵書に引かれた線の多さと付箋の多さに驚きました。それらをそのまま展示しました。真摯に学び、研究する姿勢を、今の学生も感じてくれたことでしょう。また、同窓生や地域の文学愛好家の方々にも観覧していただけたと思います。

なお、本学特任教授、中野新治先生のご協力をいただき、解説「問う者と問われる者」、「佐藤泰正代表作の原文抜粋」、「年譜」のパネルを作成、展示できたことは、何よりの成果だったと思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

展示場所が図書館1Fの奥だったため入口のポスターで案内しましたが、わかりにくかったと思います。

「学びのかたち」を示すというのは、わかりにくいコンセプトだったかもしれません。次年度は、梅光の魅力を地域の方々にアピールできるような展示を、心がけたいと思います。



展示の様様



展示観覧風景



梅光学院大学 博物館

『ひらけ、好奇心！
～國分直一生誕110年によせて～』

住 所：〒750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1

電 話：083-227-1070

e-mail：museum@baiko.ac.jp

http://www.baiko.ac.jp/university/museum/

●開催期間：11月2日(金)～1月31日(木)

【展示内容】

國分直一先生は当館創設者のお一人で、下関市綾羅木郷遺跡の国指定や中ノ浜遺跡県指定の史跡保存にご尽力されました。國分先生の口癖「やっぱり、モノは奥深く、面白いなあ!」と収集された本学所蔵の考古・民俗資料群から貴重な40点を選び、生誕記念ならびに整理成果展として紹介しました。また、「ひらく」番外編「光城女学院・服部章蔵生誕170年」展も併設、「直筆注記入りの漢訳聖書」を出品。両展ともにご覧いただきました。

【観覧者数】

288名

【関連事業】

解説会：5回（4回は学生によるパネル解説会）

【成果】

今回は目録整理が一段落した中ノ浜遺跡（下関市）と下田原貝塚（沖縄県波照間島）の考古資料を主軸に、当館と博学授業と有識者社会人サポーター、関係諸機関との協働連携企画として実施した。設営は博物館学生サポーターが行い、当館製作パネルと博学実習生目線のパネルを併設、ミニ解説会と授業をセットで開催した。会期中に来館者の要望をうけ、解説冊子（13ページA4・A5版）を作成、1月より無料配布しました。冊子の持ち帰りが目立ち、入館後に関心を寄せてくれた学生達もあり、手ごたえを感じました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

学生が提案したQRコード付きパネルを試行しましたが、想定どおりならず、取りやめたことは残念でした。その経緯からも学生、大学関係者、地域の方々と根気よく実践と工夫を重ねながら、来館者の方々とも「やっぱり、モノは奥深く、面白いなあ!」と共感しあえる展示・大学連携ML展の「場」ができたらと思います。



展示準備の様様



展示の様様



山口学芸大学 山口芸術短期大学 図書館

『子どもの可能性をひらく』

住 所：〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町 1-7-1

電 話：083-972-3288

e-mail：akiyama@yamaguchi-jca.ac.jp

http://www.yamaguchi-jca.ac.jp/library/

●開催期間：10月23日(火)～12月20日(木)

【展示内容】

子どもの可能性は、見ること・さわること・動かすことなど、様々な刺激によって拓かれます。子どもの知的興味関心を喚起するよう工夫された知育玩具や絵本（外国製を含む）をたくさん紹介しました。また、子どもの言葉を育む玩具として学生が制作したタオル人形や紙人形なども合わせて展示しました。展示物は触れることも可能としました。

【観覧者数】

不明

【成果】

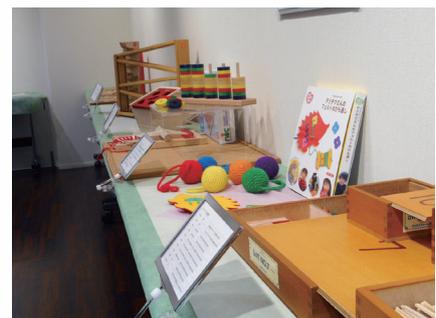
保育や幼児教育の講義等で使用している、子どもの知的興味関心を喚起するよう工夫された木製玩具・新しい素材の玩具や絵本（外国製を含む）等を、実際に触れて読んだり、遊んだりすることができる形で展示しました。素朴な作りながら、安全で安心できる、子どものための思いのこもった玩具等に、親しみや懐かしさを感じた来館者や学生も多かったようです。

また、学生作成によるタオル人形も展示しました。実際に実習で使用するために作成したのですが、既製品にはない意外性もあり、学生たちの創造性を発信する良い機会となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

今年度は、本学の新図書館への移転と標記展の準備期間が重なったため、広報等がやや不十分でした。

来年度は、関係学部・学科との連携を密にして、今年度以上に来館された方が満足されるような展示に取り組みたいと思います。



展示の様様



展示の様様



山口県立大学 図書館

『地域にひらく！
～郷土文学資料センター所蔵資料～』

住 所：〒753-8502 山口県山口市桜島 3-2-1
電 話：083-928-0522
e-mail：lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp
https://www.ypu.jp/li/
●開催期間：11月1日(木)～1月31日(木)

【展示内容】

郷土文学資料センターは、1986（昭和61）年に設立された、郷土の文学に関連する文学資料を調査、収集、保存などの活動を行っている研究機関です。所蔵する山口県にまつわる作家の文学資料は、図書・雑誌、さらには書簡・原稿・遺品等、多岐に亘っています。今年度のML連携展共通テーマである『ひらく』にちなみ、山口県立大学が所蔵する郷土文学関係資料から、いくつかを選び、地域からお見えになる来館者のみなさんに向けて、展示公開いたしました。

【観覧者数】

76名

【成果】

同じ組織の郷土文学資料センターの資料を、地域に公開したことによって、広く観覧者に見てもらうことができました。同時に、図書館の活動を紹介できる良い機会となりました。

今回は郷土文学資料センターの協力により開催することができました。今後ともそういった方向で活動することができる可能性が拡がりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

広報不足の解消を行い、観覧者数を伸ばしたいと思います。



展示の様様



展示の様様



山口大学 医学部図書館

『長州ファイブ
～時代をひらく者たち～』

住 所：〒753-8505 山口県宇部市南小串 1 丁目 1-1
電 話：0836-22-2142
e-mail：medlibsa@yamaguchi-u.ac.jp
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp
●開催期間：11月5日(月)～1月31日(木)

【展示内容】

幕末、動乱の日本から、新しい時代を切り拓くためにイギリスへと渡った「長州ファイブ」（長州五傑）を取り上げます。医学部図書館では、幕末期の西洋医学の翻訳本を展示するとともに、海外留学により未来を切り拓いている現代の医学生の声を紹介しました。

【観覧者数】

不明

【関連事業】

医学部医学科保護者見学会：1月25日（金）参加114名

【成果】

「長州ファイブ—時代をひらく者たち—」をテーマに、長州ファイブのたどった道や功績、彼らが学んだユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）と山口大学の現在の交流についてパネル展示を行いました。

文部科学省の海外留学支援制度を利用して海外で医学を学び、最前線で研究の道をひらいている医学生を取り上げました。短期医学留学に参加した学生の体験を紹介する良い機会となり、特に、低学年の学生に注目されました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

ポスター以外にも、全国の医学・看護学生の留学体験談をまとめた冊子を作成しましたが、あまり見られていないようでした。もっと興味を引けるよう、デザインや配置を考えたいと思います。



展示の様様



展示観覧風景



山口大学 工学部図書館 『長州ファイブ ～時代をひらく者たち～』

住 所：〒755-8611 山口県宇部市常盤台 2-16-1

電 話：0836-85-9051

e-mail：infoserv@yamaguchi-u.ac.jp

http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp

●開催期間：11月5日(月)～1月31日(木)

【展示内容】

幕末、動乱の日本から、新しい時代を切り拓くためにイギリスへと渡った「長州ファイブ」(長州五傑)を取り上げます。工学部図書館では、世界で活躍する技術系人材の育成を目指した「海外研修プログラム」について紹介しました。

【観覧者数】

不明

【成果】

「長州ファイブ～時代をひらく者たち～」をテーマに、長州ファイブのたどった道や功績、彼らが学んだユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)と山口大学の現在の交流についてパネル展示を行いました。

工学部が斡旋するUCLでの海外留学について取り上げました。学生が海外留学について知るきっかけとなったこと、また、担当者が留学担当部署と繋がりを持てたことが大きな成果となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

取り上げたテーマが学生に関連する内容だったので、もう少し学内に向けた広報があってもよかったですと思います。次年度は、連携する部署にも広報をお願いする等、工夫したいです。



展示の様様



展示ポスター



山口大学 総合図書館 『長州ファイブ ～時代をひらく者たち～』

住 所：〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

電 話：083-933-5183

e-mail：toshokan@yamaguchi-u.ac.jp

http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/

●開催期間：11月5日(月)～1月31日(木)

【展示内容】

幕末、動乱の日本から、新しい時代を切り拓くためにイギリスへと渡った「長州ファイブ」(長州五傑)を取り上げます。総合図書館では、彼らのたどった道や功績をパネルで紹介するとともに、幕末期に刊行されたイギリス兵法書の翻訳本等、貴重な資料も展示しました。

【観覧者数】

不明

【関連事業】

博物館情報・メディア論 展示解説：11月7日(水) 参加約40名

【成果】

「長州ファイブ～時代をひらく者たち～」をテーマに、長州ファイブのたどった道や功績、彼らが学んだユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)と山口大学の現在の交流についてパネル展示を行いました。

アンケート結果で、特にパネル内容に対して詳細で分かりやすいとの高評価を受けました。明治150年に合わせてタイムリーで、興味を引きやすいテーマだったのではないかと思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

学生の観覧者が少ないことが課題です。パネルの内容やデザインをやわらかくするなど、若者にもとつきやすい、明るい展示になるよう、工夫していきたいです。



展示の様様



展示解説の様子



山口大学 埋蔵文化財資料館

『ひらく
～山口大学吉田キャンパス開拓史～』

住 所：〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

電 話：083-933-5035

e-mail：yuam@yamaguchi-u.ac.jp

http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryoukan.home/

●開催期間：11月4日(日)～2月1日(金)

【展示内容】

山口大学吉田キャンパス（山口市）は、今でこそ大きな校舎や体育館、グラウンドなどが所狭しと建ち並んでいますが、およそ半世紀前には、のどかな農村風景がひろがっていました。当館の長年にわたる発掘調査成果により、当地では弥生時代から集落が営まれ始め、集落を徐々に移動させながら農耕地を拡大させていった様子が解明されつつあります。展示では、弥生時代から近現代までの土地活用の移り変わりを、考古資料によって解説しました。

【観覧者数】

282名

【成果】

新たな発掘調査成果を展示に反映させるため、数年に一度吉田遺跡の通史的な展示を開催しています。今回は、吉田キャンパスの中央部にて平成30年に新たに発見された古墳時代中期（5世紀前半～中ごろ）の集落とその出土遺物の特徴を公開し、集落の動向と耕作地の拡大について考察しました。また、展示内容を本学時間学研究所開催の「時間学カフェ」にて紹介し、他分野の教員から様々な指摘をいただきました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

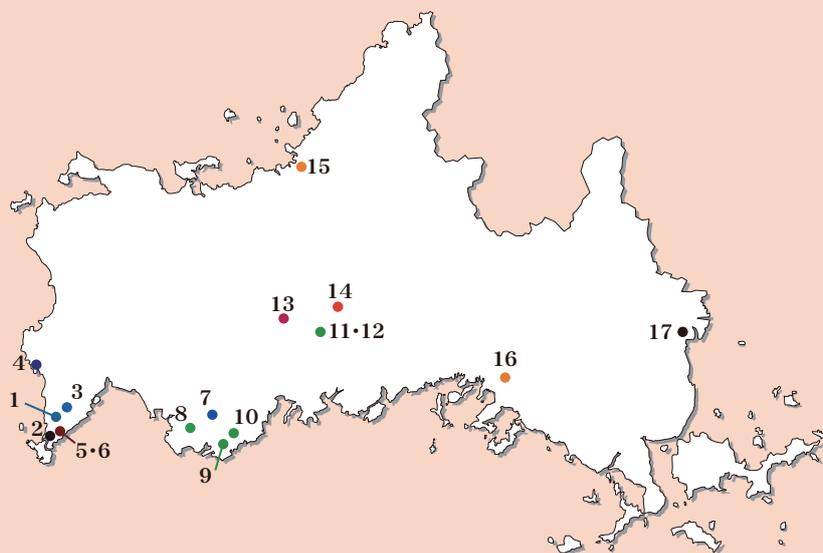
オープン当初、スタンプラリーカードを20枚用意しましたが、展示期間中増し刷りすることがありませんでした。スタンプラリーの継続について検討が必要と感じました。



展示観覧風景



弥生時代の河川と灌漑水路



【下関地区】

1. 下関市立大学附属図書館
2. 下関短期大学図書館
3. 東亜大学附属図書館
4. 水産大学校図書館
5. 梅光学院大学図書館
6. 梅光学院大学博物館

【宇部地区】

7. 宇部フロンティア大学附属図書館
8. 山陽小野田市立山口東京理科大学図書館
9. 山口大学医学部図書館
10. 山口大学工学部図書館

【山口・萩以東地区】

11. 山口大学総合図書館
12. 山口大学埋蔵文化財資料館
13. 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館
14. 山口県立大学図書館
15. 至誠館大学附属図書館
16. 徳山大学図書館
17. 岩国短期大学附属図書館

MUSEE

Fin



山口県大学ML (Museum・Library) 連携特別展
平成30年度 共通展示テーマ『ひらく』
山口県大学ML連携事業Web
<http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/>

【編集・発行】
山口県大学ML連携事業事務局
〒753-8511 山口市吉田1677-1
電話：083-933-5192
e-mail: li322@yamaguchi-u.ac.jp

[主 催] 山口県大学ML連携事業事務局
[共 催] 大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会
[後 援] 山口県博物館協会 大学博物館等協議会
山口県図書館協会